

【新改訳 2017】

ヘブル

[7]

7:1 このメルキゼデクはサレムの王で、いと高き神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを迎えて祝福しました。

7:2 アブラハムは彼に、すべての物の十分の一を分け与えました。彼の名は訳すと、まず「義の王」、次に「サレムの王」、すなわち「平和の王」です。

7:3 父もなく、母もなく、系図もなく、生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされて、いつまでも祭司としてとどまっているのです。

7:4 さて、その人がどんなに偉大であったかを考えてみなさい。族長であるアブラハムでさえ、彼に一番良い戦利品の十分の一を与えました。

7:5 レビの子らの中で祭司職を受ける者たちは、同じアブラハムの子孫であるのに、民から、すなわち自分の兄弟たちから、十分の一を徴収するように、律法で命じられています。

7:6 ところが、レビの子らの系図につながっていない者が、アブラハムから十分の一を受け取り、約束を受けたアブラハムを祝福しました。

7:7 言うまでもなく、より劣った者が、よりすぐれた者から祝福を受けるものです。

7:8 十分の一を受けているのは、一方では、死ぬべき人たちですが、他方では、生きていると証しされている人です。

7:9 言うならば、十分の一を受け取るレビでさえ、アブラハムを通して十分の一を納めた

のでした。

7:10 というのは、メルキゼデクがアブラハムを出迎えたとき、レビはまだ父の腰の中にいたからです。

イエス様は永遠の大祭司です。人間の大祭司はレビの家系から選ばれました。そのレビはアブラハムの子孫です。メルキゼデクがアブラハムを祝福したということはメルキゼデクがアブラハムよりも上位であるということです。

すなわち、大祭司よりもレビが、レビよりもアブラハムが、アブラハムよりもメルキゼデクが上位であり、そのメルキゼデクもイエスのひな型に過ぎなかったということです。

旧約の出来事はこのようにすべてイエス・キリストを表しているのです。これほどまでにイエス様に関するできごとは、神の権威によって行われているのです。イエス様の前にひれ伏し、その権威を認めて、従いましょう。イエス様はこの世の全てのものの中で最もあなたを愛してくださる方です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

